



排出事業者責任

今年も早いものでついこの間お正月を迎えたと思ったらすでに2月の半ばになろうとしています。年のせいなのか、はたまた別の問題なのかはわかりませんが、時間の流れが10年前と比べて早くなっているのは気のせいではない、と感じる今日この頃です。

さて、先日仙台にあります管理型最終処分場の視察に行ってきました。場内はきちんと管理されており、特段問題なしと確認ができました。話の中でやはり処分場に持ち込まれる量は減っているそうです。そうすると、最終処分場の寿命が延びることになり、今後、処分場建設が難しいことから排出事業者にとっては喜ばしいことではありますが、処分場側から見ればあまり好ましい事ではないという側面もあります。今後も当社は排出事業者、中間処理業者として、処分場の確認は定期的に行ってまいります。

仙台にて中国を考えるセミナーに参加

処分場を確認の後、仙台市内に戻り、仙台プラザホテルにて開催されました東北六県再生資源組合連合会の研修委員会主催「一徹底検証一再生資源業界は中国をあてにできるのか」というタイトルのセミナーに参加してきました。講師には東洋学園大学・朱 建榮氏、(株)アジア通信社代表取締役・徐 静波氏、伊藤忠商事(株)中国研究所所長・古谷 明氏の3名でした。

最初に朱先生のお話で、中国の現在の体制は2012年までは続く。現在は「第三の革命」時期に入っており、中間層(年収400~600万円程度又は中流階級と中流意識の持つ人)が現在5億人ほどになっており、これが大量消費社会を形成しはじめています。何か昔の日本でも一億総中流というのがありました。ちょうど日本で言うところの1970~80年ぐらいでしょうか。2000年までの内外格差は発展をする(集中的な資源の投資)ためにはやむをえない状況だったとの事。2000~2020年は内陸部に傾斜してさらにGDPを4倍にする。現在

の中国では年間5000km程の高速道路が作られており、都市の発展率は1位から10位までのうち9都市が内陸部となっていることから急速にインフラ等の整備も進んでいると考えられます。そして2050年までには先進国を全面的に追い上げる。これが今現在の中国のシナリオだそうです。ただ急速な発展は問題も多いとの話でした。水などの資源の不足、環境汚染、国際社会の圧力等です。環境汚染についてはわが国も大きな顔でどうこう言えたものではありません。過去には大きな公害問題となった件があることを忘れてはいけません。

次は(株)アジア通信社の徐代表取締役のお話です。こちらではこんなお話を聞きました。現在の上海では結婚の条件に男性は持ち家だそうです。上海のマンション成約平均価格('09第三四半期)は203万8000元(約2800万円)だということですからこれをローンで無く買うのは簡単ではありません。それで親から祖父にまでお願いして購入し、お嫁さんをむかえるのだとか。賃貸やアパートだと生活力がないとみなされるのでしょうか。一人子政策により男女比が不均等になっているのだと考えられます。

また日本に観光に来る(ビザの発行)条件も年収制限があります。日本に旅行に来て特にお土産で売れるのは銀座三越の資生堂売り場だそうです。なぜ資生堂か? コーセーもカネボウもあるのに、答えは意外と単純で漢字だからだそうです。カタカナより漢字でわかりやすいところが人気の秘密だそうです。ここまでは非常に活気ある中国、魅力がある中国ということで、今すぐにも行って商売の足がかりを作ろうと思わせるお話ばかりでした。

最後は伊藤忠商事、古谷所長のお話。

中国はお隣にあり、アメリカと同じ魅力的な市場に成長している。しかし、政府の政策の下に経済がぶら下がっているのが現状であり、つまり政策次第で景気の上がり下がりが出る可能性がある。国内の需給のバランスも自動車で見れば供給過多になっている。世界同時不況の時に金融政策でGDPが8.7%伸びたが、その内の8%は不動産や株による投資の伸びであり、消費が伸びていない。消費が伸びてこそ経済の成長と捉えることが出来る。市場として魅力的だが、同時にリスクも潜んでいる。そこを理解した上で、商売をするのが大切でしょうとのことでした。

中国は魅力的でありながら、まだまだ謎が多き国であると感じております。